

献 辞

大阪経済大学経営学部長 池 島 真 策

國友順市先生は、平成31（2019）年3月をもって定年を迎え、大阪経済大学を退職されることになりました。大阪経大会は、大阪経大論集第69巻第4号を「國友順市教授退職記念号」として上梓しました。謹んで本書を献呈し、心から感謝の意を表する次第です。

國友先生は、昭和49（1974）年に西南学院大学法学部を卒業した後、同大学大学院法学研究科修士課程・博士課程に進まれました。昭和56（1981）年に京都学園大学経済学部専任講師に就任、昭和61（1986）年に本学経済学部助教授に転じられ、平成3（1991）年に教授に昇任されました。本学においては、33年の長きにわたり研究と教育に携わってこられました。

まず、研究面では、「会社の法人格とは何か」というテーマで研究を続けてこられました。またそこから発展し、「法人の意義」の探求や、なぜ企業の不祥事は後を絶たないのかということから「コーポレート・ガバナンス論」にまで幅を広げておられました。こうしたテーマは、商法・会社法の分野では難題とされるものでありますが、学会や研究会などに積極的に参加しながら研鑽を積み、そうした関連テーマの業績を多数残しておられます。

また、教育面においては、「会社法を学べば、その法的な知識や考えが、仕事だけでなく日常の社会生活に活かされる。」という考えのもと、学生や大学院生を温かく教育・指導されてきました。

そして、学内行政では、経済学部長補佐、経済学部長、法人評議員、就職部長などを務められ、本学の運営にも貢献くださいました。

國友先生は、教授会などの会議の場では法律教員らしい鋭い発言をなさる反面、そうした場を離れば、明るくて柔和でお酒好きな九州男児です。何度となく酒席で一緒にいたしましたが、先生の笑顔と滑らかな会話によりその場は大変和みます。先生には、退職後も特任教授として、従来通りの科目の担当だけでなく、学生や大学院生の指導にあたられ、本学部および経営学研究科の教育の面で重要な一翼を担って頂くことになっております。それゆえ、もう暫くはあの明るく柔和な先生と一緒できることを大変嬉しく思っております。

最後に、先生のますますのご健勝とご活躍を、同僚一同とともに心より祈念しております。